

令和4年度 厚生常任委員会 視察報告書

1 視察日

令和5年1月25日（水）～27日（金）

2 参加委員

杉田勝典（委員長）、ストラットン恵美子（副委員長）
小山ようこ、鈴木めぐみ、中土井かおる、平良木哲也、大島洋一

3 視察先

東京都世田谷区、神奈川県小田原市、神奈川県大和市

4 調査事項及び説明を受けた内容

月日	視察先	調査事項	説明を受けた内容
1月 25日 (水)	東京都 世田谷区	世田谷版ネウボラの取組について	・取組の経緯、制度内容、利用実績、利用者の実態、関係する事業等
1月 26日 (木)	神奈川県 小田原市	E Vを活用した地域エネルギーマネジメントモデル事業について	・取組の経緯、財源、カーシェアリングの利用状況及び稼働の実績等
1月 27日 (金)	神奈川県 大和市	ご遺族支援コーナー、おひとりさま支援の取組	・ご遺族支援コーナーについては利用実績、他の業務への影響等、おひとりさま支援については利用実績、周知方法等

5 参加議員の所感

E Vを活用した地域エネルギーマネジメントモデル事業については、小田原市の地域の配電網を活用した「太陽光発電設備と蓄電池等での独立運用」の展望が地域エネルギーマネジメントのあるべき姿であろう。

そのためには、既存の電力供給事業者との連携が大きな課題となる。また、民間の出資を得ることで、行政としての予算支出を基本的に行っていないという点は、市民の理解を得やすい取組であろう。

当市には、農業用水路網があり、それを活用したマクロ水力発電の可能性が展望できる。このことを含めて、当市には大きな潜在的エネルギー源が存在する。それらに加えてV P P、スマート配電を活用することで、当市において一大再生エネルギー電源創出都市を構築することが可能であるという確信を強いものにした。

また、ご遺族支援コーナーの取組については、相談窓口が市役所にあること、行政が行っている取組であることが高齢者や市民にとって安心感がある。

いわゆる「死後の手続」という漠然とした不安が軽減されると考える。

当市においても、今後「おひとりさま」の支援ニーズが高まる。要介護状態になってからではなく健康なうちから不安を抱える身寄りのない高齢者に対し、より具体的な支援を行政が積極的に行っていく必要性がある。